

ニュース

日本ユニシスグループ  
2015-2017年度の中期経営計画  
「Innovative Challenge Plan」を発表  
——日本ユニシス

日本ユニシスは、12月1日、日本ユニシスグループの新たな中期経営計画「Innovative Challenge Plan」を発表しました。この中期経営計画では、2020年に向けたビジョン「ビジネスをつなぎ、サービスを動かす。ICTを刺激し、未来をつくり出そう。」とともに、3カ年の重点戦略を策定しています。

近年、クラウドやデバイス、IoT (Internet of Things) などの利用拡大によって、消費者創発による新たなデジタルエコノミー市場が創出され、業種・業態をまたがるITサービスが創造されてきています。また従来型のシステムも、こうしたITサービスとの融合が促進されるなど、さらなる変革を迫られています。

そうしたなか、当社は現在の中期経営計画で「共創」「社会基盤」などの新たなビジネスを積極的に進め、強みを強化してきました。この成果を活かして、2018年3月をターゲットに「チャ



次期中期経営計画説明会で「Innovative Challenge Plan」の内容を説明する黒川社長

レンジと「変革」を進めながら、デジタルエコノミー領域でのイノベーションを実現し、お客様とともに持続的成長企業となることをめざしています。

## 日本ユニシスグループの中期経営計画 (2015-2017)

2015-2017年度 中期経営計画  
**Innovative Challenge Plan**

**デジタルエコノミー・イノベーション**  
社会的ニーズや課題から、  
持続可能な新しいビジネスモデルを構築する。

**デジタルイノベーション**

異業種をつなぎ、企業のデジタルビジネスを最速・最適に提供するサービスとプラットフォームを提供する。

**ライフイノベーション**

社会を豊かにするサービスを創造し、サービス事業主体として推進する。

**ビジネスICTプラットフォーム**

提供スピードを加速するため、サービスの工業化(※)を進め、社内外のサービスを最速・最適に組合せて提供するサービス体系に刷新する。

チャレンジ領域  
変革領域

※サービスの工業化：サービスを提供する際に自動化・標準化・部品化などを行い、効率的なサービス提供を実現すること。

ソリューション

日本ユニシスと(株)イトーキが「近未来オフィスにおける協創的コミュニケーション」の仕組みを共同研究

——日本ユニシス

日本ユニシスと(株)イトーキは、高い創造性を発揮する近未来オフィス空間の構築を目的に、協創的コミュニケーションを支援する仕組みの共同研究「近未来オフィス U & I 空間プロジェクト」を開始しました。



日本ユニシスが開発した人工知能(AI)を活かして、会議参加者の発言を瞬時に解析し、新しい発想やインスピレーションの手がかりを空間内のテーブルや壁が提示する仕組みを備えています。

日本ユニシスは、これまでも人とコミュニケーションをとり、協調する機械の実現に向けて、人が意思疎通を図る時に前提として共有している日常のさまざまな事柄に関する背景知識や認識(コンセンサス)を機械に備わせる人工知能(AI)の研究開発を進めてきました。今回の共同研究では、その研究成果をイトーキが提案する最先端オフィスと融合し、人と人のコミュニケーションを強化するオフィスコンセプトづくりをめざしています。

研究成果の第一弾として、そのコンセプトを具現化するオフィス空間の施策を東京都中央区にある「イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA」で公開しています(2015年3月31日まで)。開催中は、グループワークにおける発想や共通認識を形成するためのコミュニケーションをサポートするオフィス空間が体験できます。ご希望の方は、日本ユニシスの担当営業までお問い合わせください。